

わかると快感!

Z会ナビ

算数 理科 歴史 地理

お題

日本はなぜ、ほかの国を助けて戦うことになったのか?

(東京大学 1992年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

西暦660年、百済が唐・新羅の連合軍に攻め滅ぼされたとき、百済の王族は日本に対して、応援の軍隊を送るよう求め、百済の国の復活を手伝ってもらいたいと頼みました。日本はこの頼みに積極的に応じ、百済の復活のための準備を進めました。663年、ついに日本は朝鮮半島に大軍を送り、百済と協力して唐・新羅の連合軍と戦い、白村江の戦いで大敗するまで、百済への支援をやめませんでした。

このとき日本はなぜ積極的に百済を支援したのでしょうか。下の年表を参考に、当時の東アジアの状況と、日本国内の事情に触れながら、説明しなさい。

- 612 隋、高句麗に出兵する
- 618 隋が滅び、唐が建国される
- 624 唐、国内の法律を整備。高句麗・新羅・百済の王、唐から称号を得る
- 645 唐・新羅の軍、高句麗に出兵する
- 648 唐と新羅の軍事同盟が成立する
- 660 唐・新羅の連合軍、百済を滅ぼす
- 663 白村江の戦い
- 668 唐・新羅の連合軍、高句麗を滅ぼす

今回は7世紀=飛鳥時代の話です。見慣れない国の名前がたくさん出てきましたので、右の地図で確認してみましょう。

東アジアの状況と日本の立場

年表から、唐が国内の体制を整えながら、朝



イラスト：瑞木匠

を結び、高句麗・百済を攻めています。日本は、鉄などの資源を手に入れるため、朝鮮半島に進出していました。なかでも百済とは親しい関係にあり、中国大陸の進んだ文化も百済を通して取り入れてきました。日本にとって、百済の支援は必要なことだったのです。

戦争を必要とした国内の事情

さらに日本国内にも目を向けてみましょう。日本では、「大化の改新」と呼ばれる、中大兄皇子を中心とした新しい国づくりが、645年から行われていました。この「大化の改新」も、大陸の情勢に乗り遅れないために進められたものだったのですが、昔ながらの有力者たちは、自分たちの権利や利益を脅かすような新しい国づくりに不満を持っていました。そのような状況の中での百済への支援は、海外に目を向けさせて国内での不満を解消させるとともに、戦争により国民の心を一つにまとめ、政府に権力を集中させるという、国内の政治においても重要な意味があったのです。【Z会・河原井彩】

戦争の背景



朝鮮半島にある国々への影響力を強めていることがわかるでしょう。とくに、新羅とは同盟関係

! 今回の教訓

戦争は、国どうしの問題であるだけでなく、その国の中の問題でもあります。



河原井彩さん 2007年にZ会に入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在は小学生向けデジタル通信教育「デジタルZ」を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。